

環境モデル都市 円卓会議 会議録

部 会 名	食と農と暮らし円卓会議		記入者	徳富
開催回数	第4回			池崎
開催日時	平成21年10月2日(金)19時～21時5分			
開催場所	市役所秋葉会館3F第2会議室A			
出席者	推進委員	沢畑	食改善推進委員	谷口
	推進委員	浮島	漁業協同組合	諫山
	推進委員	藤本	市農林水産振興室	田中
	環境マイスター	森下	市環境モデル推進課	徳富
	環境マイスター	松本	市環境モデル推進課	池崎
	水俣保健所	丸塚		
	栄養士会	浦		
	出席者 計			12名
欠席者	推進委員	下田	市健康高齢課	岩下
	推進委員	前川	市障害学習課	松本
	JAあしきた	宮本	給食センター	田上
	水俣芦北森林組合	西平	欠席者 計	7名
内 容	1、地産・地消推進「水俣特産ソフトクリーム」について			
	進行役: 前回の会議で水俣産品としてのソフトクリームづくりをすることに決めたが、(CO2削減のための)長期的目標の上から言うと、単にソフトクリームを作って売っただけでは意味があまりない。太陽光発電の普及、電力があまりかからないようにする、素材も手間のかかっていないものを使うなどソフトクリームをつくるために、他でそれだけのCO2を削減したうえでやっているということ、つまり、カーボンオフセットの考え方で進めていくことが必要だ。円卓会議のメンバーで炭焼きを何回かして、できた炭をどこかの田畑に撒くなどすると、目に見える形でCO2削減ができる。			
	● 若い人などが水俣の道の駅などに寄る際のきっかけになるのではないかと、そういう話の流れからソフトクリームの話は出てきた。			
	● お金をかけないのであれば、太陽光発電などの自然エネルギーを利用しては。それほどエネルギーがかからなければよし、とする。その点からいうと、エネルギーがかからないシャリシャリのソフトなどよいのではないかと。			
	事務局: エコソフトみたいな感じで。			
	● 素材を選ぶのも一つのやり方。例えばうちでは肥料も農薬もやらない。エネルギーがかかっていない。そういうイメージかな？			
	● まず、外向けの商品じゃなくて地産地消から自分たちの食べるものを考えていくべきでは。地産地消のシステムづくりが大事だ。			
	進行役: 具体的にどういう機械を調達して、どういう素材でどういうようにして			

内 容

つくればいいのか検討する。

● 機械を貸してくれる人やソフトクリームづくりのノウハウを知っている人などを広報紙などで公募してはどうか。スイーツスタンプラリーなどに展開していけるかもしれない。

● : 山のものとしてはお茶、海のものとしては昆布・ひじきなどどうか。昆布などはネバネバするが。

事務局: 水俣版「トルコアイス」みたいでいいのでは。

進行役: たまねぎ・昆布・甘夏・デコポン・茶・バラなどがある。材料がどれくらいいるかなどわからないので、技術を持っている人にやってみてみる必要がある。芦北の「ぎゅうぎゅう亭」ではセルフでつくれる機械がある。

● あけび・しょうがなど季節限定のものもいいのでは。(他に竹炭・紅茶・ほうじ茶・塩、また、添加物を使わない、自然の甘みでなどの意見も出された。)

販売する時期の目標としては来年5月の「ローズフェスタ」くらいでいいのではないか。(皆、賛同。)

進行役: 作り方を調べ、それぞれ作ってみて、それから試作品を決定しよう。

芦北地域振興局に改良普及員(地域づくりマイスター)がいるので、事務局から尋ねてみるといい。また、山鹿市には製造を代行してくれる人もいるようなので尋ねてみたらどうか。

「水俣のソフトクリーム試作品の条件」

- ・白砂糖ではなく黒砂糖を使用する。
- ・あまり甘くなくてよい。自然の甘みで。
- ・無農薬の材料を使用する。
- ・カーボンオフセットの考え方で作る。

2、菜の花プロジェクト推進について

進行役: 労力を楽にすることが必要。

● クボタなどの農機具メーカーに小型の機械の開発はしないのか尋ねてみては。

進行役: 高田鉄工所ではいろいろニーズに応じてつくっている。(水俣で開発して全国展開すれば、プロジェクトの拡大が図られる。軽トラックに積めるぐらいの大きさでないといけないなどの意見あり。)

● 機械がだめなら自治会で1ヶ所ずつぐらい植えてもらえたらいいのだが……。

内 容	事務局：自治会長会で円卓会議でのプロジェクト検討内容などを情報提供してみてはどうか。モデル的に1ヶ所でも2ヶ所でも耕作してくれるところが出るかもしれない。もし、そういうところがあれば、企画課の方で「がまだす自治会支援事業助成金」を担当しているので、それを利用して事業ができると思う。 ● 頭石に学校田があるので話をしてみたい。 ● 葛渡小中学校にも学校田があるので話をしてみる。（生徒達に手伝わせることに意味がある、また、植付け時のボランティアを公募したらどうか。天候に左右されるのでそれは難しいとの他委員からの意見もあり。） 進行役：とにかく収穫を楽にする方法を考えながら面積を拡大していこう。 ● 鑑賞用のものも植えよう。CO2を吸収することになる。 ● 来年の秋に日本一長い運動場に種を撒くようなイベントを実施してはどうか。菜の花マラソンのようなものはどうか。（撒きながら走る。） 進行役：今年は、事務局が種を容易しているので、今日持ち帰ってそれぞれ実験的に撒いて様子を見てみよう。イベントは来年の秋で考えていこう。 ● 大豆は植えるのが難しい。収穫が安定しない。 ● ハトやカラスがでてきたばかりの柔らかい芽を食べてしまうので対策が必要だ。しかし、作ったあとの利用を考えると大豆はいろいろなものが作るので楽しみだ。豆腐屋さんに、どれくらい大豆の量があればつくってもらえるのか聞いてみないと。 ● 大豆2kgで豆腐9丁ぐらいできると思う。 進行役：来年は大豆に手を入れてやってみよう。事務局から次回の会議で検討してほしいことはないか。 事務局：地産・地消ということで「地産・地消の日」を設けることを検討してもらえたらと思う。その日には水俣産のものをできるだけ家族そろって食べる。そんな日をつくりたい。 ● 自分もそういう日をつくることは必要だと思う。ぜひつくろう。 事務局：10月10日、市民講座でエコドライブ実習をするのでぜひご参加を、また10月27日にはエコバッグ作成の講習会も開催する。さらに11月22日には環境モデル都市フェスタを散らしの内容で開催するので、よろしくお願いしたい。
次回開催日等	平成21年11月10日(火)午後3時～ 市役所秋葉会館3F会議室A